

令和3年度南信州地域計画の取組計画について

～豊かさあふれる南信州農業！ 農から始まる新しい交流文化～

資料 3

■ 達成指標

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	計画 (2021年)	目標年 (2022年)
1	45歳未満の新規就農者数(単年度)	28人	28人	28人
	Iターン就農者数(単年度)	5人	5人	5人
2	柿の栽培面積	517ha	538ha	542ha
	ぶどう無核大粒品種の栽培面積	21.8ha	45ha	46(25)ha
3	きゅうり・アスパラガス施設面積	32ha	36.5ha	37ha
	白ねぎ等新品目栽培面積	23ha	35ha	36(26)ha
	信州プレミアム牛肉認定頭数	694頭/年	837頭/年	765頭/年
4	伝統野菜認定数	11種類	15種類	15(13)種類
	6次産業化総合化事業計画達成件数	1件	4件	4件
5	都市農村交流人口	193,755人	208,800人	213,900人
	販売金額1億円以上の農産物直売所数	7か所	8か所	8か所
6	計画期間中に整備する重要な農業水利施設の整備か所数	—	5か所	6か所
	多面的機能及び中山間直接支払取組面積	2,751ha	2,926ha	2,993ha

重点取組1：南信州農業の次代を担う人材の確保・育成

- 県、市町村、JAと連携し相談活動や研修事業等の充実による担い手確保の強化
 - ・市町村・JAと連携した相談活動の実施（随時）
 - ・スキルアップセミナー基礎講座の開催（5回）、専門講座の開催（柿講座3回、簿記講座4回）。
- 各種セミナー、研修会による新規就農者や中核的経営体の資質向上
 - ・農家の経営方針に沿って、専門家も交えた個別の伴走支援活動及び経営発展のための集合研修の開催（1回）
 - ・5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践、作業工程の見直しといった「カイゼン」の手法を活用した経営改善研修会の開催（1回）
- 帰農塾等によるU1ターン含む定年帰農者への支援の充実
 - ・定年退職者等を対象にした帰農塾の開催（基礎講座5回、専門講座（柿、りんご、花、きゅうり、トマト、アスパラガス各4回））

重点取組2：新技術や新品種拡大による競争力の強い果樹産地づくり

- シナノリップなどりんごの新品種を含めた県オリジナル品種の戦略的拡大
 - ・モデルほ場（2か所）を活用した早生品種（つがる、恋空®）との収量の比較調査並びに熟度調査の実施（4回）及び適期収穫講習会の開催（1回）
- 市田柿の生産拡大と「市田柿+α」複合経営の推進
 - ・市田柿+きゅうり経営による優良事例の聞き取り調査（2回）
 - ・早採りによる「もどり」の発生防止のため、熟度調査に基づく適期収穫の徹底
 - ・市田柿ブランド推進協議会等と連携した食品衛生法一部改正の周知及び改正に伴う対応支援（営業届、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理等 2回）

- りんご新しい化栽培やなし樹体ジョイント仕立て栽培など省力化と生産性向上の推進
 - ・りんご新しい化栽培の導入推進及びフェザー苗木の生育状況の巡回（2回）
 - ・なし樹体ジョイント仕立て導入ほ場の側枝の生育量調査及び初収穫ほ場での着果管理指導（3回）
- シャインマスカットやナガノパープル等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化
 - ・高品質な「シャインマスカット」の生産のため、新梢管理や果房管理等4つの課題について、小集団活動による解決の推進。
 - ・「シャインマスカット」の成木園における高品質生産のための栽培管理講習会の開催（3回）
 - ・新品種「クイーンルージュ®」の生産拡大のため、品種検討会の開催（1回）及び栽培特性の把握

重点取組3：マーケットインの複合産地の構築

- きゅうり・アスパラガスの施設化の推進
 - ・きゅうり新規栽培者等を対象とした研修会やJA野菜部会の反省会等を通じた施設化及び養液栽培等の啓発活動の実施（5回）
- 白ねぎ等新品目の作付け推進
 - ・白ねぎの基肥一発肥料を活用した追肥作業の省力栽培技術確立に向けた実証ほの設置（1か所）
 - ・ズッキーニのウィルス病耐性品種の活用による生産安定に向けた現地適応性評価ほ場の設置（1か所）
- ダリア等200種類以上の多品目花き生産への支援
 - ・ダリアの高温対策（細霧冷房等）の実証（1か所）による夏秋期の生産安定
 - ・実もの花木類の着果安定に向けた実証ほの設置（3か所）
- 県内一の茶産地の維持
 - ・摘採予測の迅速な情報伝達及び栽培管理講習会の開催（3回）
 - ・保温資材の常時被覆による生育促進の実証ほ設置（3か所）
- 需要に即したきのこ生産
 - ・キノコバエ類の発消長調査（4か所）及び落下菌調査等による害菌対策による生産安定のための巡回（4回）
 - ・異物混入の解消に向けた歩行性害虫の侵入経路の実態把握調査に基づく栽培環境の改善（1か所）
- 信州プレミアム牛肉・銘柄豚など畜産物の生産拡大
 - ・「信州あんしん農産物（牛肉）生産認定農場」（35戸）への農場HACCPの啓発
 - ・飼養衛生管理基準の周知等による家畜防疫対策の徹底（養豚農家15戸）
- ICT等新技術の導入検討
 - ・ICT機器の効果の検証及び導入促進（牛群管理システムやハウス内の環境モニタリングシステム及び環境制御システムの導入6件）
 - ・スマート農業相談窓口の設置及び無人草刈り機等を使った現地実演会の開催（1回）

重点取組4：稼ぐ農業ビジネスに向けた高付加価値化の推進

- シードルなど新たな地域特産品の開発の推進と消費の拡大
 - ・シードル向けりんご生産を取り入れた農業経営モデルの作成
 - ・シードルの既存銘柄の分析等消費拡大に向けた品質向上の取組支援（2回）
- 輸出を志向する取組や認証取得等高付加価値販売を目指す取組への支援
 - ・GAP 認証取得拡大のための周知（随時）及び取組定着のための支援（希望者）
 - ・輸出果実（なし、りんご）の検疫に係る施設登録申請手続き、選果技術員研修及び施設査察の支援（3選果場）
 - ・市田柿輸出の取組支援（1団体）
- 伝統野菜をはじめとした地元食材の食べ方提案等による消費誘導
 - ・伝統野菜の採種技術の向上による安定的な種子の確保と固有形質の維持継承の支援（採種指導会1回）
 - ・伝統野菜フェア等の開催による伝統野菜の新しい食べ方の提案（7～9月、2回）
- 食品産業との連携への支援
 - ・しあわせ商談サイトへの登録誘導及び新たな生活スタイルに合ったマッチングの推進（3件）

重点取組5：食育の推進と交流を通じた地消地産の拡大

- 小学生や未就学児との農業体験会の開催など教育現場との協働による食育の強化
 - ・小学生を対象にした市田柿の食育事業（市田柿作り1校、おやつ作り1校）の取組みや、大豆「つぶほまれ」の栽培を通じた食育活動を支援
 - ・未就学児を対象とした阿智村「まめっこ応援団」の活動を支援
- 直売所の品揃え強化・ネットワーク化等による消費誘導
 - ・研修会の開催（2回）による魅力ある売り場づくりの支援
- 市田柿など地域特産品のレシピ開発や料理講座等への支援
 - ・市田柿の消費宣伝リーフレットの配布及び試食販売の実施（県内1回）
 - ・生産者による地域特産品等の生産現場の情報発信及びシェフによる調理方法の説明をセットにした情報発信と活用方法の提案（2回 鈴ヶ沢なす、ジビエ（鹿肉））
 - ・一般消費者を対象とした地元の旬の野菜や伝統野菜を活用するためのワークショップ（5回）及びこれらを用いたガレット料理講習会の開催（5回）
- 交流人口増加を見据えた地元農産物のPRと「観光＋農業」の取組の推進
 - ・新たなグリーンツーリズム推進のしくみづくりに向けた農家民宿やゲストハウス等宿泊事業者のニーズ把握（10件）と意見交換会の開催（2回）
 - ・ホテルや飲食店等において地元食材の積極的な活用を図るため、生産者、実需者、関係機関等と目指す姿を検討（1回）
 - ・「南信州を味わえる食」の提供に向け動き出した地消地産システムの構築を支援（2回）

重点取組6：農を基軸とした多様で豊かな地域づくり

- 農業体験型研修の充実等による移住・定住者の支援
 - ・移住希望者等を対象とした農ある暮らし入門研修（集合研修3回）等により移住・定住を推進
- 企業法人等による荒廃農地の活用や農地中間管理事業等の活用による農用地利用の最適化の推進
 - ・実質化された「人・農地プラン」の実践を支援（14市町村）するとともに、今年度に実質化するプランの実質化に向けた取組を促進（5市町村）
 - ・果樹産地維持のため、樹園地継承の受け皿となる新たな担い手の検討
 - ・有害鳥獣対策に係る情報交換会や長野式電気柵の設置指導会の開催（1回）
- 農村の持つ多面的機能の維持と小水力など地域資源の活用促進
 - ・多面的機能支払交付金を活用し、農業生産活動を維持していくために必要な農地・水路・農道等の保全活動及び補修・補強・更新等の質的向上活動を支援（12市町村）
 - ・中山間地域等直接支払制度の事業拡大や新たな加算措置等への取組を推進（14市町村）
- 農業用施設の長寿命化及び農村の防災対策の推進
 - ・富田沢暗渠の補修を行うとともに、計画期間中に整備する6か所の達成に向け、令和4年度施工箇所について、設計等の事前準備を実施（竜東一貫水路・北の沢隧道）